平成24年度　フェリス女学院中学校（国語）　解答・解説

解答

［一］

問一　2

問二　3

問三　1

問四　子どもにものを買ってやれないこと。

問五　タズが幼いリカのために、白つめ草の花輪をつくってあげること。

問六　1 ×　2 ○　3 ×　4 ○　5 ○　6 ×

問七　4

問八　2

問九　① 3　② 4

問十　2

問十一　ノボルのヨーヨーを買ってほしいという欲求を、貧しさのため叶えられなかったこと。

問十二　1

問十三　4

［二］

問一　ア 3　イ 2

問二　a 4　b 1

問三　世の中にとり残されたくない気持ちのために、私たちがせっかちになること。

問四　A 人工着色のタラコ　B 自然のタラコ

問五　質の点で問題のある出版物やドラマや音楽にふれていると、品のよくない人間になり、うすっぺらな文化をつくってしまうこと。

問六　限られた時間の中で様々なことができるため、能率的な生活を送れるというのが、スピード社会の良い点である。一方で、能率を求めるあまり、心の余裕がなくなり、物事をじっくりと考えたり味わったりすることができなくなる結果、人間の考えが浅くなるという問題点もある。スピードだけを求めるのではなく、時間をかけるべき物事にはじっくり取り組む習慣を社会全体が身につけるべきだ。

［三］

A 3　B 1　C 2

［四］

1 向学　2 舌　3 管　4 改〔まる〕　5 機知

6 と〔め金〕　7 やさ〔しい〕　8 ただ〔ちに〕

解説

［一］

問一　傍線の「課せられた自分の責務を果たそうつもりか」に着目します。ここから、妹の子守という、自分に任された仕事を果たそうとするノボルの気持ちが読み取れますね。

問二　傍線の次の行に、「その歌声を耳にするとき、私はいつもノボルの心は西空の『湯ノ岳』の山嶺を〜重いカセを解き放たれる自由の日暮れを待ちわびているのかもしれない」とあります。この部分から「私」のノボルに対する想像がどういうものか、判断できます。

問三　問二で確認したように、「私」はノボルが、「妹の子守から解放される日ぼつをひたすら待ち望んでいる」のだと想像しています。本当は「こわっぱたちの遊び」に参加したいのに参加できないつらさがあるのでしょう。しかし、そのつらさを口に出さず、子守という自分の役目を引き受け、じっとたえているノボル。その姿を、「私」は想像しています。

問四　2ページの冒頭に、「私たちはいまだかつて子どもたちのために、おもちゃといえるものを買ってあたえたことが

ない。ともあれ余ゆうがないのだ」とあります。つまり、子どもにものを買う財力がないことを、「親らしい力を持たぬ親である」と言いかえているのです。

問五　解答例として考えられるのは、次の部分です。①…傍線の次の行の「白つめ草がさけば、タズは〜リカの小さいくびにまでかざってやる」の部分。②…①の直後にあるタズの行動。小さい実を土の上に並べ、いろいろな図形を作ることについて触れればよいでしょう。③…ノボルが自分の力で、「ヨーヨー」を作り上げた行動。もちろん、「ヨーヨー」以外のおもちゃについて触れても構いません。

問六　傍線と同じ段落に、「親ばかの情熱は、〜わが子のどこかに人に知られぬ高い評価の点数をつけたがる」とあります。ここから、ノボルの作ったコマにも高い評価を与えることが読み取れますので、4は〇。また、傍線には倒置法が用いられていますが、これはノボルが立派なコマを「自分の手で」「四つも五つも」作ったおどろきの気持ちが、思わず興奮するほどのものであったことを意味します。したがって2・5も〇です。1の「感謝」の気持ちは、少なくともコマを作った場面からは読み取れませんし、3や6も「ノボルは素晴らしいコマを作った」という文脈に当てはまりません。

問七　問六でも確認したように、ノボルの作ったコマは高い評価を与えられる立派なものでした。それを作ったノボルにおどろき、興奮し、そしてほこらしさを感じた「私」は、そのコマを何としてもよいものにしてやりたいと思ったはずです。その思いは、傍線直後の「不必要な古いもみうら〜布よりの絹ひもがふさわしいようだ」という、ひも作りに関する姿勢からも読み取れます。

問八　傍線の直後に「土台おもちゃは楽しいものでなければならないはずだから」とあります。「私」はノボルのつくったおもちゃから、大量生産されたものにはない楽しさを発見できたから「笑いころげた」のです。

問九　傍線の「こんな場合」は、「初めてノボルが、ものを買ってほしいとねだった」という内容を指します。きっと「私」は、ノボルの「いじらしい欲望」を、なんとかして叶えてあげたいのでしょう。しかし、「こんな場合」でも、「二銭の価値は、キャベツ一個、〜タズに新しい長いのを買ってあげられる。（傍線部直後）」と、日常生活を最優先に考えてしまうのです。この2点をおさえれば、解答は導き出せます。

問十　この日の夜、ノボルは見事にヨーヨーを作り上げ、家族を大いに喜ばせました。ここから考えると、ノボルはだまってカボチャを食べながらヨーヨーの作り方を考え、その後、ヨーヨーを作るために戸外へ出て行ったのだろうと判断できます。

問十一　傍線の前の行に「コマひもの二銭、ヨーヨーの二銭、が妙に胸にひっかかって」とあります。これが「私」の「後悔」のもとです。もちろん、「二銭」を生活費のために惜しみ（貧しさのために）、ヨーヨーを買ってやれなかったことが、「私」の胸にひっかかっているのですね。このことが読み取れるように書きましょう。

問十二　問十一の「後悔」の気持ちから、ノボルのことを「何もかもあわれに思えて」きた「私」は、父の「つかれたんだらやすめ」という言葉に「頭をふって」、農作業を続けます。農作業に没頭することで、コマを買ってやらなかった自分の「日ごろの生活からわく打算を忘れぬ非情さ（問九）」と、ノボルをあわれむ気持ちを、一生懸命に忘れようとしているのでしょう。

問十三　ノボルつくったヨーヨーは、「入念な仕上げ」のなされた素晴らしいできばえでした。そのヨーヨーが、「満月の青くかがやく戸外」の「光の中」で動く姿は、非常に美しいと想像できます。また、問八で確認したように、ノボルのつくったおもちゃには、おもちゃ本来の楽しさも見いだせます。

［二］

問三　傍線の前の行に「このとり残されてはこまるという気持が、私たち全部をせっかちにしている」とあります。「この」の指す内容は、さらに前の行にある「世の中の人がみんなスピード・アップしているのに自分がそれに歩調をあわさないと、とり残されるような気持になる。」という一文に示されていますね。これらの要素が読み取れるように、解答をまとめましょう。

問四　傍線A・Bをふくむ段落をよく読みましょう。Aは「奥さん連中」の立場から、Bは「魚屋さん」の立場から、「ほんとうのタラコ」について書かれています。

問五　傍線の直後に、「質の点で問題のある出版物やドラマや音楽ばかりを、つぎつぎと『消費』していると、いつのまにか有毒色素みたいなものが精神のなかに蓄積して、人間として品のよくない人間になってしまう」とあります。まずはこの部分をまとめますが、「有毒色素〜蓄積して」の部分は比喩表現ですので、「精神に害を与えて」などと書き換えましょう。また、人間がせっかちな生活を続けた場合、将来的に文化というものが「うすっぺらな文化ができてしまうだろう」と筆者は述べています。この要素も解答に加えましょう。

問六　「スピード社会」の「良い点」と「悪い点」の両方について触れるのはもちろんですが、あなた自身が「スピード社会」の「良い点」「悪い点」について、どちらを重視するのかも解答にふくめたいところです。